

2021年4月5日

やまゆり園での東京パラリンピック採火に対する抗議文

神奈川県知事 黒岩祐治 殿
相模原市市長 本村賢太郎 殿
かながわ共同会理事長 草光純二 殿

自立生活センター リングリング
代表 中尾悦子
兵庫県神戸市兵庫区中道通6丁目3-12-101

私たちは、どんなに重い障害を持っていても、地域での暮らしを実践する、障害当事者の権利擁護団体です。私たちは、24時間、介助者のサポートを得ながら自立生活し、障害者の存在を世の中に知らせてきました。

3月21日の報道によると、神奈川県、相模原市、かながわ共同会は、2020東京パラリンピックの採火を「津久井やまゆり園」で行うことを固めたとあります。

私たちは、その最悪なニュースを目の当たりにして言葉を失っています。さらに「津久井やまゆり園を共生社会の発信地にする」と知り、憤りを隠せません。

私たちは、この非道な行為について抗議し、「津久井やまゆり園」で採火を行うという決定の取り消しを求めます。

「津久井やまゆり園」は、150人以上の障害者を収容した隔離施設です。2016年7月26日未明に、19人もの知的障害者が元職員の手によって殺害された場所です。この戦後最大の殺人事件は、世界中の障害者を恐怖に陥れ、そのために外出が困難になるほどの心の傷を負った人も多くいます。神奈川県、相模原市、かながわ共同会は、あの痛ましい殺戮事件を、19人の無念の死を、美談にすり替え終決させようとしているのではないのでしょうか。

あの事件は、まだ終わっていません。亡くなった人たちの多くは、未だ実名も明かされず、その恐怖や怒りは、今なお表沙汰にされておらず、なぜこのような事件が起こったのかについての十分な振り返りも二度とこのような事件が起こらない施策もありません。建物を作り替えて、あの事件の痕跡をなくそうとする、その態度からも、優生思想と隔離への反省がないことは明らかです。

一部、新聞報道によると「共生社会の実現に向けた強い決意を国内外に示すため、園で採火することにした」とあります。そもそも、施設は、障害者が当たり前地域に存在することを否定する物であり、共生社会の実現とは程遠いところに位置しています。

それどころか、やまゆり園では、あの事件のあとも、障害者虐待が繰り返されています。その検証も十分になされず、逆に虐待を闇に葬るような動きもみられます。なぜ、そのよう

な場所が共生社会の発信地になり得るのでしょうか？

共生社会実現の意思をこのような誤った方法で国内外に発信することは、国内の障害者への侮辱であり、国際的にも人権侵害への感度が極めて鈍い国として位置付けられることは目に見えています。

国連障害者権利条約では、障害者を施設に収容することは、差別にあたり、はっきりと記されています。あらゆる選択肢を提示された中から施設を選んだという障害者は、ほとんどいません。生きるために、やむを得ず施設で暮らすのです。そして、皮肉なことに、その生きるために収容された施設で、彼らは殺されたのです。

やまゆり園事件で殺された人は「障害者には生きる価値がない」として、一瞬にして命を奪われました。この事件は、障害者というカテゴリーに属する人たちへの憎悪にもとづくジェノサイドです。しかし、事件が起きたあと、首相は声明も出さず、国家としてこのジェノサイドに立ち向かう毅然とした態度も見せませんでした。その国家が力を注ぐパラリンピックを盛り上げるために、障害者の死が利用されるのは、さらなる犠牲を強いられることであり、許されることではありません。

「やまゆり園の事件を忘れない」というのは、彼らの死を無駄にせず、優生思想に立ち向かう行動を起こすということです。彼らを美しい犠牲者として憐れむことではないのです。障害者が健常者と分け隔てられず、ひとりの人間の生きる権利として十分にサポートをもらえる社会が、本当の「共生社会」です。

よって、私たちは、「津久井やまゆり園」からの採火に対して強く抗議するとともに、この決定を直ちに取り消すことを求めます。